鎌倉市校務DX推進計画

令和7年10月

鎌倉市教育委員会

1

なぜ校務DXなのか

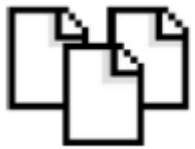
学習DXの環境整備は一定達成しており、よい実践がどんどん生まれている

- 児童生徒用iPadセルラーモデル（令和８年３月に最新iPad(A16)に更新予定）
- 教員用iPadセルラーモデル（令和10年３月に更新予定）
- 大型提示装置（ミライタッチ）（令和９年３月に更新予定）
- 教育ネットワーク回線（SINET）・データセンターを整備（～令和８年８月）
- eライブラリ（令和８年３月まで→中学校のみの予定）
- すららネット（～令和８年８月）
- 児童生徒全員にGoogleアカウントが付与されており、Google Workspace for Educationの活用が進んでいる

一方、校務DXには多くの課題が残っている

◆統一のコミュニケーションツールがないため、学校間や市教委・学校間の連絡手段が乏しい。
（電話中心となりスムーズなコミュニケーションが図れていない）

◆教育委員会からの通知文がすべて紙ベース



◆職員（市費・県費ともに）の勤怠管理等が紙ベース

◆校務ネットワークには職員室・事務室・校長室等の限られた場所からしかアクセスできないため、働き方が制限されている

◆保護者への連絡手段として「連絡メール」があるが、学校からのお便り等のデジタル配信はあまり進んでいない

◆各教員に外部メールが解放されていないため、外部関係者との連絡が取りにくい（共用PCを使用してメールでやりとりor私的メール）

校長会でも課題や負担感について多くの声が寄せられた

職員の外部メール

チャットなど市内共通で使える
コミュニケーションツール

様々な紙の帳票類の保護者
の負担・学校の負担

市職出勤簿等の押印

校支援がiPadから
入れない

パソコンを移動して、
会議できない

大量に送りつけられる
文書やチラシの処理

出所：令和７年６月３日定例校長会対話の時間「現状、校務において“アナログゆえ”に生じてしまっている課題・負担感は何ですか？」

教育大綱においても、クラウド・AI活用等のデジタル技術による学びの転換を重点プロジェクトとして掲げている

❶ ワクワクして未来を創る学びを生み出す

取組の方向性

“テストの点数”のみを追い求める学びに、持続可能性はない。まるで“探検”するかのような、学習者がワクワクする主体的な学びをつくる。

実現したい“学び”のシーン（例）

- 大好きな**“海”を探究**。深海生物はふしぎがいっぱいでとても面白い！
- でも、**地元の漁港や研究者にインタビュー**すると、海はたくさんの**社会課題とつながり**が…？

- タブレットを使った授業は、**いつでも調べられる**しすぐに友達と**資料を共有**できるから便利！
- **宿題もアプリで**。間違えた問題や間違え方によって**解説を変えてくれる**から分かりやすい！

重点的に取り組むプロジェクト

A 新たな時代に対応した学びの実現

- スクールコラボファンドの活用も含めた、体験的・探究的な学びの推進など、時代の変化に応じた学びの在り方の変容に取り組む

B デジタル技術による学びの転換

- Cellularモデルの１人１台端末整備や、クラウド・AI活用等を通じた教育DXにより、誰もが自分らしく主体的に学べる環境の整備を進める

C “学習者中心の学び”への挑戦支援

- 各学校・教職員が“学習者中心の学び”を前提として学校経営・授業等に取り組めるよう、各学校への伴走支援や教職員研修の充実に取り組む

文部科学省もDXにより教員の働き方改革を推進したいと考えている

文部科学省

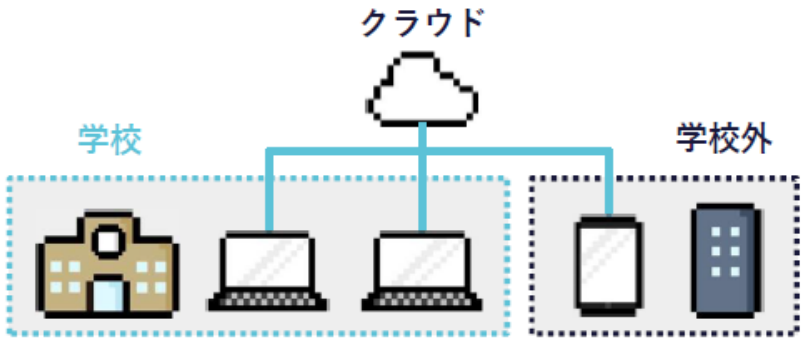
出所：GIGAスクール構想の下での校務DXについて（文部科学省）

文部科学省もDXにより教員の働き方改革を推進したいと考えている

目指す姿

校務DXで何ができるようになるか

#働き方改革の観点



校務支援システム(教務管理/保健管理/学籍管理)と汎用のクラウドツールの積極的な活用により、教職員や校内・校外の学校関係者、教育委員会職員の**負担軽減・コミュニケーションの迅速化や活性化**が可能となります。

校務支援システムのクラウド化と教職員用端末の一台化を組み合わせることで、**ロケーションフリー**で校務系・学習系システムへ接続可能な環境を整備し、教職員一人一人の**事情に合わせた柔軟かつ安全な働き方**が可能となります。

出所：GIGAスクール構想の下での校務DXについて（文部科学省）

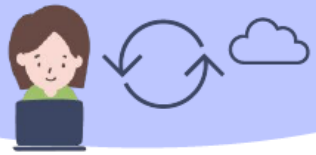
文部科学省もDXにより教員の働き方改革を推進したいと考えている

Ⅰ　デジタル化による教職員の負担軽減

【目指すべき方向性】
校務DXにより必要なすべての業務がデジタル完結し、システムの相互連携により入力はワンスオンリーとするとともに、生成AIを校務で積極的に活用することで、教職員の事務作業等の負担が大幅に軽減され、子供に向き合う環境が実現されている。

紙の資料がまだまだ多く残っており、
校務支援システムもオンプレミス環境

パブリッククラウドを前提とした
次世代校務DX環境へ移行



高校入試事務手続きでは、調査書などの
紙書類を手渡しや郵送でやりとり

学校間・システム間でデジタル完結やデータ連携・
入力のワンスオンリーが実現

「やめることリスト」の実現

- 電話と書面による保護者と学校間のやり取りをやめる（デジタル化する）
- 職員会議の紙での資料共有をやめる（デジタル化する）
- 学校内外の日程管理を電話や書面で行わない（デジタル化する）

等

- 名簿情報の校務支援システムへのデータ連携

出所：教育DXロードマップ（デジタル庁 総務省 文部科学省 経済産業省）

文部科学省もDXにより教員の働き方改革を推進したいと考えている

12のやめることリスト（デジタルに変えること）
～教師が学習者に向き合う環境を実現するために～

デジタル完結・ワンスオンリーの徹底により、「デジタルの良さ」を実感しながら、**教職員の負担を大幅に軽減し、学習者に向き合う時間を確保することが取組の第一歩**である。そのため、12のやめること（デジタルに変えること）のリストを作成した。各教育委員会・学校において、積極的なデジタル化を進めることが期待される。政府としても、「校務DXダッシュボード」等を活用しながら、校務DXの実現に向けた取組を進めていく。

□	① 電話等による児童生徒の欠席連絡等の受付
□	② 紙での保護者への調査・アンケート
□	③ 紙での各種調査票等の学校から保護者への配布・保護者から学校への回収
□	④ 紙での教職員への調査・アンケート
□	⑤ 新入学児童生徒の名簿情報の校務支援システムへの不必要な手入力
□	⑥ 電話や書面による保護者との日程調整
□	⑦ 職員会議等資料の紙での共有
□	⑧ 紙での児童生徒への調査・アンケート
□	⑨ 学校から保護者へ発信するお便り等の紙での配布
□	⑩ 教職員が作成した教材等の各自での保存
□	⑪ 学校徴収金の現金徴収
□	⑫ 紙での学校内外の行事日程や特別教室等に係る利用予約等の管理

出所：教育DXロードマップ（デジタル庁 総務省 文部科学省 経済産業省）

現状の課題や国の方針をふまえ、

市教委として校務DXを力強く推進していきたい

（校務DX推進は学習DXの更なる発展にも寄与）

2 本推進計画で実現したいこと

文部科学省は2029年までに全自治体で次世代校務DX環境を導入することを目指している

重点事項に関する工程表

*を付した項目については、「校務DXダッシュボード」においてモニタリングを実施予定

	2025（R7）	2026（R8）	2027（R9）	2028（R10）	2029（R11）
次世代校務DXの推進	全自治体で次世代校務DX環境の導入を検討 → 都道府県域で共同調達・帳票統一の促進 → 全自治体で次世代校務DX環境導入済み				
	自治体の取組状況をモニタリング*し、次世代校務DX環境への移行に向けた支援等の必要な取組を推進				
高校入試事務のデジタル化	都道府県での実証 → モデル仕様書の活用等により、各都道府県における調達・導入を支援 → 原則として、希望する各都道府県でデジタル化				
	各都道府県の状況を踏まえ、必要な取組の推進				
やめることリストの実現	自治体の取組状況をモニタリング*し、必要な取組の推進				
１人１台端末を活用した学びの推進	都道府県域で１人１台端末の共同調達 ※ 2026 年度中に、地方公共団体における効率的な執行・活用状況について検証するとともに、次期更新に向けて、今後の支援の在り方を検討し、方向性を示す。				
	文部科学省CBTシステム（MEXCBT）の活用促進				
多様な学習ツールの導入	１人１台端末や生成AI等の活用に関する好事例創出・横展開				
	多様なサービスのカタログ化やモデル仕様書、DMPを通じた調達支援				
必要なネットワーク環境の整備	ネットワーク改善支援 → 全校で必要なネットワーク速度を確保				
	サービスのカタログ化				
教育デジタルサービスの相互接続	「相互運用標準モデル（※）」の改訂・普及、標準への適合性評価に向けた検討・実施 （標準への適合性をセルフチェックする仕組みをR7以降早期に運用開始、R7より第三者機関による標準への適合性確認の仕組みについて具体的に検討）				
	モデルスケジュール等を活用した標準規格による教育データ連携の横展開				

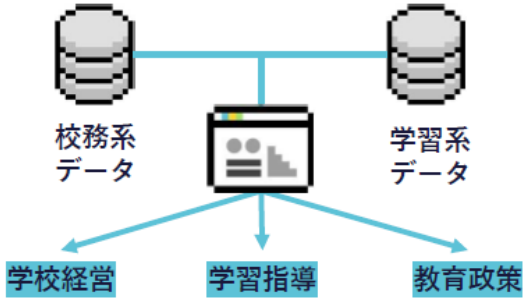
※「初等中等教育におけるシステム間連携のための相互運用標準モデル」

出所：教育DXロードマップ（デジタル庁 総務省 文部科学省 経済産業省）

文部科学省は次世代校務DX環境を次の４要素で定義している

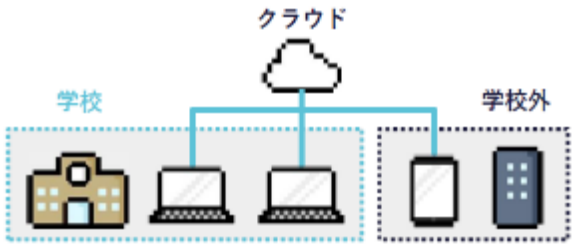
強固なアクセス制御に基づくセキュリティ対策の実施（ゼロトラストセキュリティ）

ゼロトラストセキュリティとは
「何も信頼しない」という考え方のもと、すべてのアクセスに対し「誰が、どこから、どんなデバイスでアクセスしようとしているか」を 毎回確認するセキュリティ対策



ネットワーク統合

ネットワーク統合とは
校務系・学習系ネットワークを統合し、強固なアクセス制御（ゼロトラストセキュリティ）のもと、どこからでもアクセスできるようにすること（現状は校務系ネットワークは職員室等からしかアクセスできない閉じられた環境となっている）



クラウド型校務支援システムの整備

クラウド型校務支援システムとは
インターネットにつながっていればシステムにアクセスできる校務支援システム

データの可視化・利活用を行うための機能の整備（ダッシュボード機能）

ダッシュボード機能とは
学校に蓄積された色々なデータを、グラフや表などを使って、ひと目でわかるように表示してくれる機能

本推進計画では「次世代校務DX環境の整備」と「Googleサービスのフル活用」を２本柱として進めていく

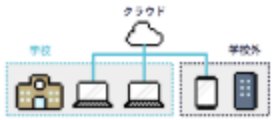
次世代校務DX環境の整備

&

Googleサービスのフル活用

強固なアクセス制御に基づくセキュリティ対策の実施
（ゼロトラスト）

ネットワーク統合



クラウド型校務支援システムの整備

データの可視化・利活用を行うための機能の整備
（ダッシュボード機能）

Google for Education

学校内・学校間・市教委・保護者等とのスムーズなコミュニケーションを実現

教職員

鎌教研の連絡をしたいんだけど、電話してもみんな忙しくてなかなか出てくれないんだよなあ。

教職員

市内共通のチャットツールで一斉に連絡できるから楽ちん！チャット形式だから情報共有や相談もやりやすいな。

教職員

校長先生・教頭先生に相談したいことや確認してもらいたい書類があるけど、いつも忙しそうでなかなか時間が合わないな。

教職員

チャットを活用していつでも相談できるし、通知表の所見確認も校務支援システム上で完結して記録にも残るので安心。

教職員

毎回保護者へのお便りを印刷したり、教室で配布したり大変だな。紙代もすごくかかってるし。ちゃんと保護者に渡していない子もいつもいるし。

保護者

行事予定表を冷蔵庫に貼ってあるけど、外で確認したいときに見れないの不便なのよね。ランドセルの奥底にくしゃくしゃのお便りが眠っていることもよくあるし。

教職員

保護者へのお便りはアプリで一斉配信できるの便利だな。回答もアプリ上で収集できるし、回答のない保護者にだけ再送信できるのも催促の電話の回数が減ってよかった。

保護者

お便りはアプリで届くから安心。アプリでいつでも行事予定表確認できるし、回答もアプリ上で完結するのでとっても便利だわ。

管理職

外部の方とのやり取りが、限定されたメールアドレスでしかできないからやりにくいな。共有PCに届いてもなかなか気づかないし。

管理職

自分のGmailアドレスが使えるようになったから、外部の方への連絡もスムーズになった！自分の端末でやり取りできるから通知にもすぐ気づけるし安心。

業務効率化・省力化＆ロケーションフリーな働き方を実現

教職員

職員室でないと校務支援システムが使えないし、校務データもすべて教育ネットに保存されているから職員室でしか仕事ができない～。

教職員

校務支援システムもクラウド型だし、校務データもクラウドにあるから教室でも出張先でもどこでも仕事ができる！

教職員

フォームを使って欠席連絡受けられるようになったけど、後から校務支援システムに入力しなきゃなのは面倒くさいな。

教職員

保護者はアプリで欠席連絡して、担任はワンクリックで校務支援システムにも登録されるからとっても簡単だね！

教職員

年度初めの忙しい時期に「家庭環境調査票」や「健康調査票」を集めるのは大変だな。紛失したら大問題だから管理も気を遣うし。

保護者

年度初めの忙しい時期に「家庭環境調査票」や「健康調査票」に記入するの大変だな。きょうだい３人いるから何回も同じこと書かなきゃだし。

教職員

保護者がアプリで入力すればそのまま校務支援システムに登録されるから楽ちん！紙での管理も必要ないし、クラウドでどこからでも確認可能なのも助かる！

保護者

アプリで入力すればいいので楽ちん。「家庭環境調査票」はきょうだいがいても１回で済むのもいいな。年度途中の変更もアプリからの申請でとっても簡単ね。

管理職

教育委員会から大量の紙文書が届いて処理が大変！先生たちに紙で回覧するのも時間がかかるし、デジタルで回覧するためにわざわざスキャンするのも非効率的だなあ。

管理職

教育委員会からの文書はシステム上で受け取って、学校内の承認行為や文書回覧もシステム上で完結するからとってもスムーズ！

校務DX推進により働き方改革を実現し、
教師のウェルビーイングの向上を目指す

「学校内」「学校間」「学校・市教委間」のスムーズなコミュニケーション

ロケーションフリーによる多様な働き方

「先生でなければできないこと」に集中できる環境

3 具体的な取組

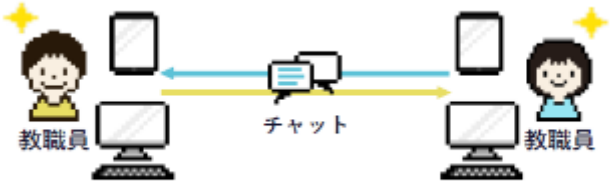
担当課：学びみらい課

市内統一のコミュニケーションツール（Google Chat）の導入

- 鎌倉市立学校全教職員および市教育委員会職員が「Google Chat」を共通コミュニケーションツールとして使用し、「校内外の教職員間」「学校・市教委間」の情報共有や連絡に活用する。

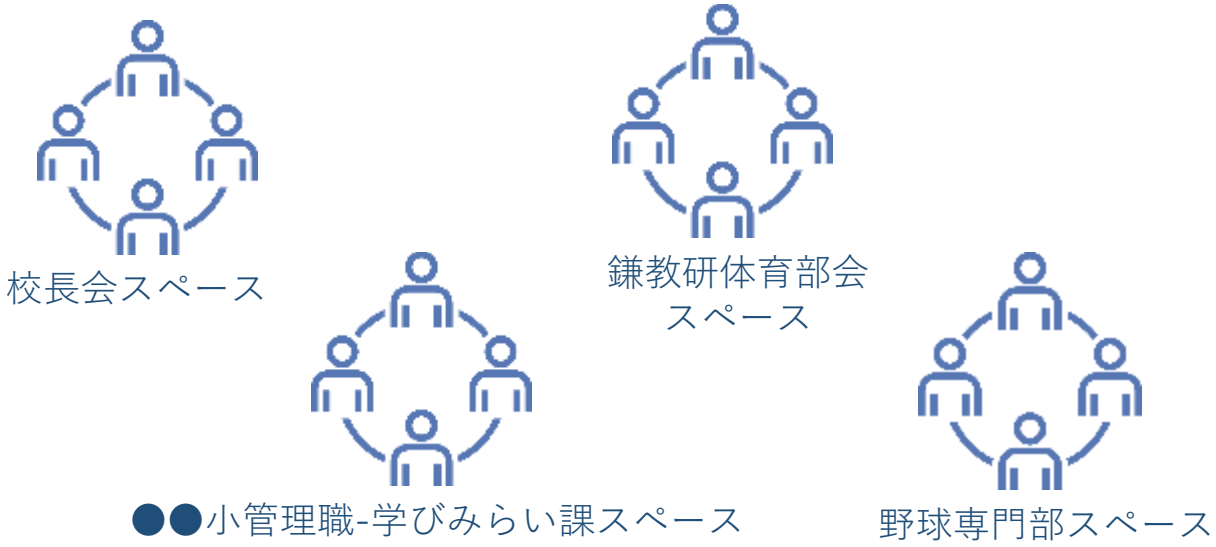
- 任意のグループ（Google Chatでは「スペース」）を作成し、隙間時間を含む各自の都合の良いタイミングでの意見交換や迅速な情報共有が学校内外を問わず可能となることで、会議や情報共有のための打ち合わせ時間が短縮される。

- 教育委員会から先生方への一斉連絡も可能に。



学校内グループ例

学校間・学校-市教委間グループ例



担当課：学びみらい課

市内統一のコミュニケーションツール（Google Chat）の導入

Action Plan

- 校長会・教頭会・事務部会・ICT教育環境整備担当者会等で周知（学びみらい課）
- ガイドライン（マニュアル）作成（学びみらい課）
- 主なスペース作成（学びみらい課）

ガイドラインはこちらをタップ→

Road Map

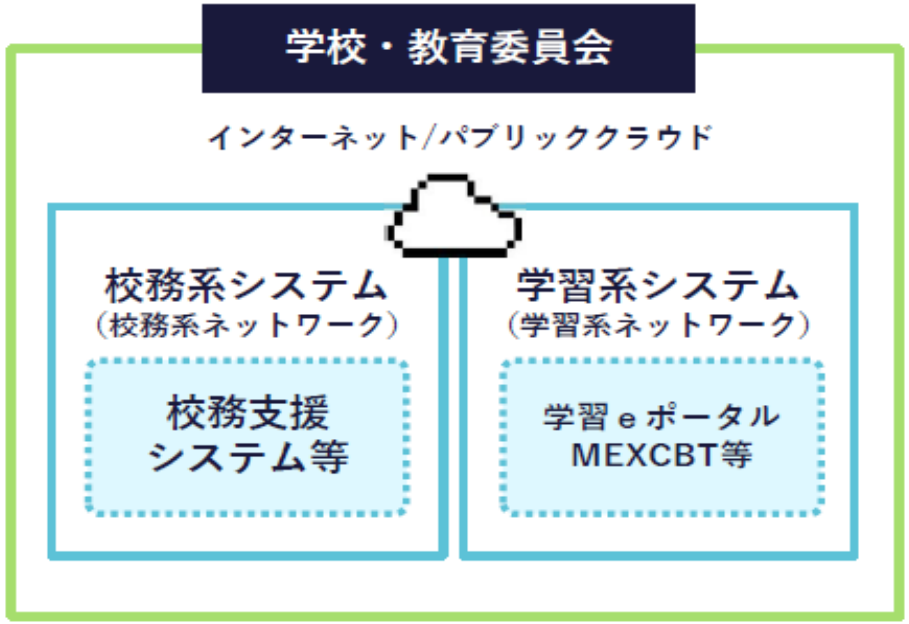
令和７(2025)年度										令和８(2026)年度												
６月	７月	８月	９月	10月	11月	12月	１月	２月	３月	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10月	11月	12月	１月	２月	３月	４月

- ガイドライン作成・周知
- 可能な学校から校内で運用 → 全ての学校・学校間で運用
- 管理職・事務職・市教委間で運用開始

担当課：教育指導課 学びみらい課

クラウド型校務支援システムの導入

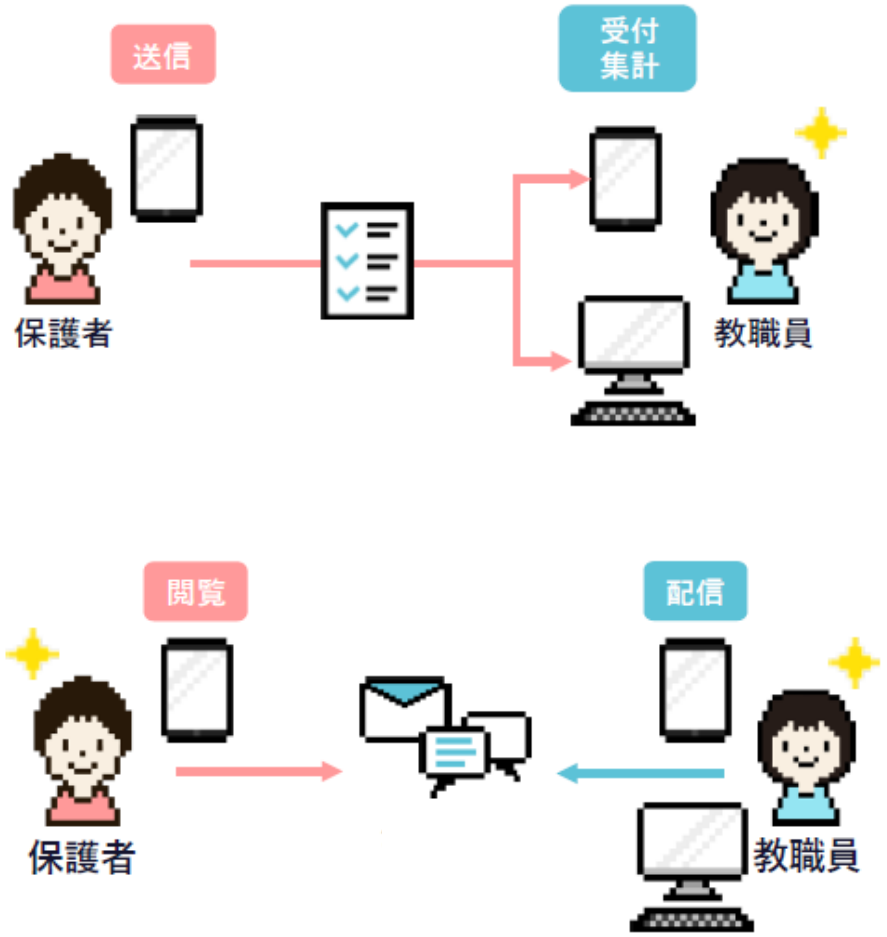
- 文部科学省ガイドラインに沿ったネットワーク上のセキュリティを備え、インターネット環境でも安全に利用できるクラウド型校務支援システムを導入。
- ロケーションフリーによる教職員の多様な働き方を実現。
- iPadでも校務支援システムを利用できるようになり、教室で出欠や授業の記録等を入力・確認が可能になる。
- 様々な場所に保存されているデータを、ダッシュボードで学校・学年・学級・児童生徒それぞれの単位で１画面に集約。
- アラート機能で注目すべき児童生徒（欠席や保健室利用等）をピックアップ。
- 教育委員会向けダッシュボードで各学校の欠席者状況等をリアルタイムに把握。



担当課：教育指導課 学びみらい課

クラウド型校務支援システムの導入

- 学校が設定すれば、児童生徒・保護者が出欠情報や成績情報をアプリで確認可能に。
- 通知表をアプリで公開することで、児童生徒・保護者はデジタルでの確認やダウンロードしての保管も可能。１・２学期はアプリで確認し年度末だけ紙の配付等の運用も可能に。
- 家庭環境調査票や健康調査票等の情報を保護者がデジタルで申請することで、そのままシステムに登録可能。紙での管理やデータの再入力が一切不要に。
- 保護者はアプリから欠席連絡を入力。担任が承認すればそのまま校務支援システムにも入力完了に。
- 通知表等の様式も、各学校で状況に応じて柔軟にカスタマイズ可能。（年度途中の変更も自由に可能）



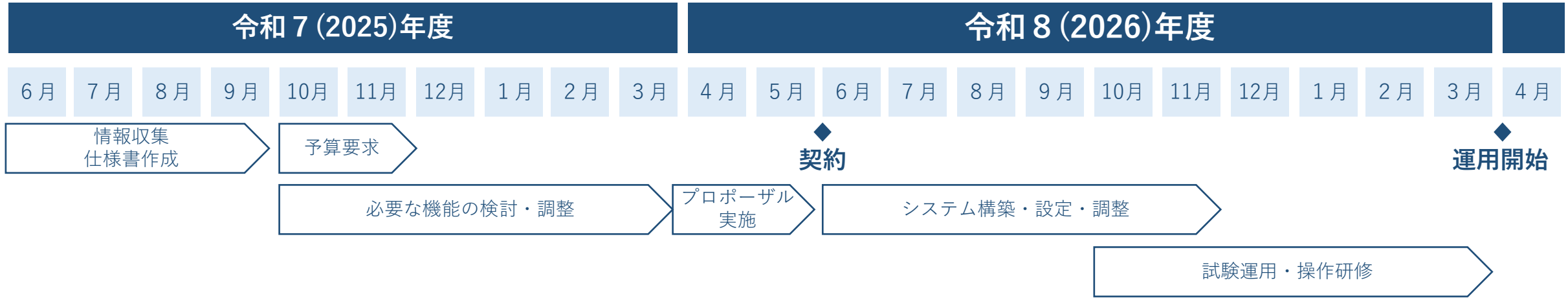
担当課：教育指導課 学びみらい課

クラウド型校務支援システムの導入

Action Plan

- 仕様書作成（教育指導課 学びみらい課）
- 公募型プロポーザルの実施（教育指導課 学びみらい課）

Road Map



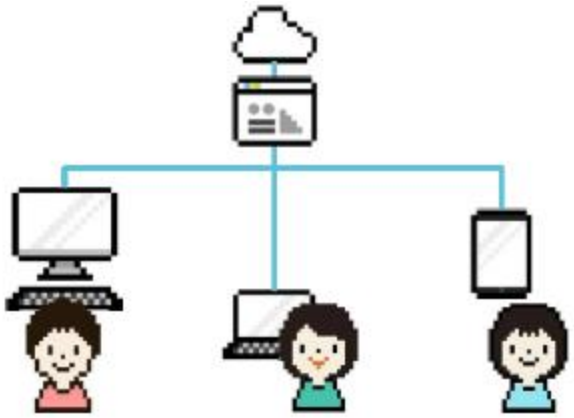
担当課：教育指導課 教育総務課 学びみらい課

校務データのクラウドストレージ（Googleドライブ）保存

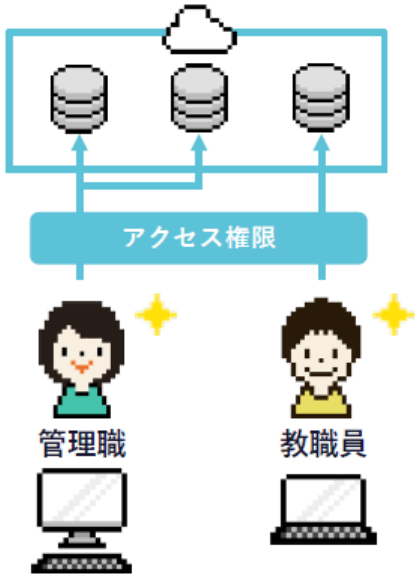
- 校務系システムを閉域網で運用するのではなく、ゼロトラストの考え方に基づきアクセス制御によるセキュリティ対策を十分講じた上で、校務系・学習系ネットワークをパブリッククラウド上に統合。

- 校務データをGoogleドライブ上に保存することで、ロケーションフリーによる教職員の多様な働き方を実現。データの共有、同時編集等がスムーズに。USBメモリ等の持ち出しリスクも減少。

- 校務用PCにパソコン版ドライブをインストールすることで、従来のYドライブと比較し違和感なく操作可能。



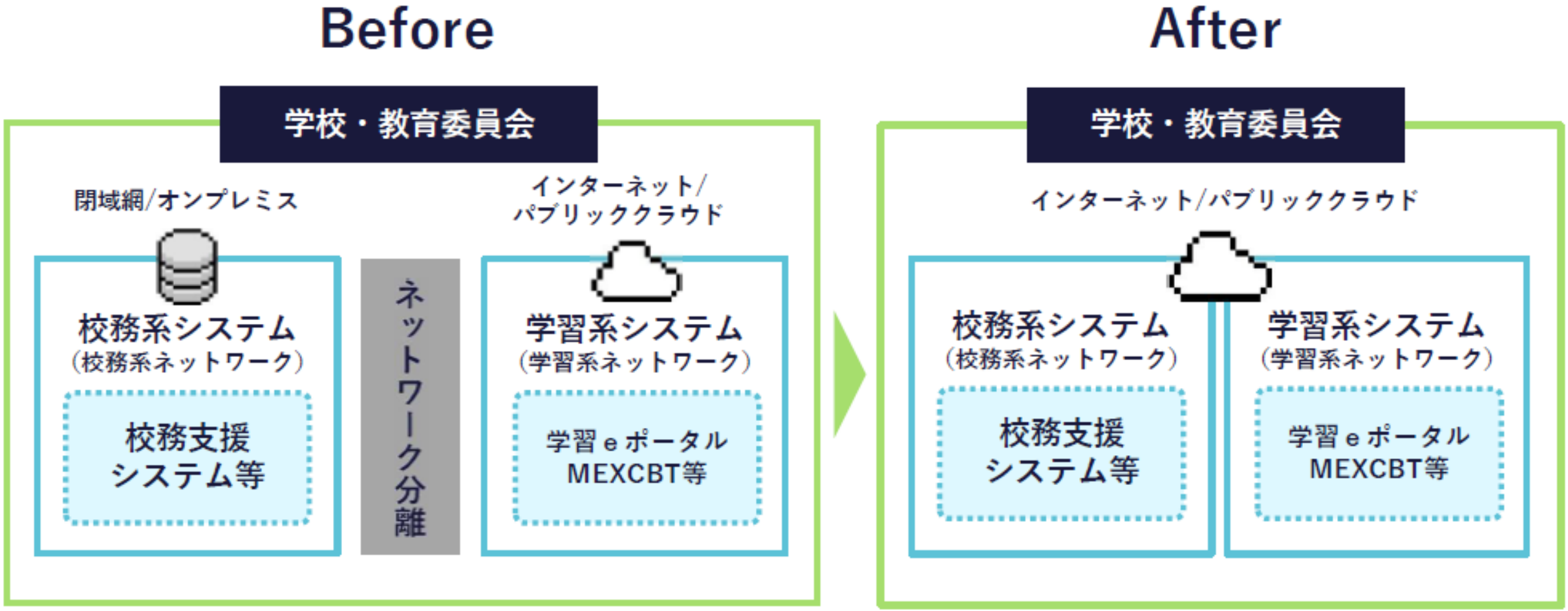
どこからでも校務データにアクセス



職位・端末・ネットワーク等様々な条件に応じたアクセス制限を設定

担当課：教育指導課 教育総務課 学びみらい課

校務データのクラウドストレージ（Googleドライブ）保存



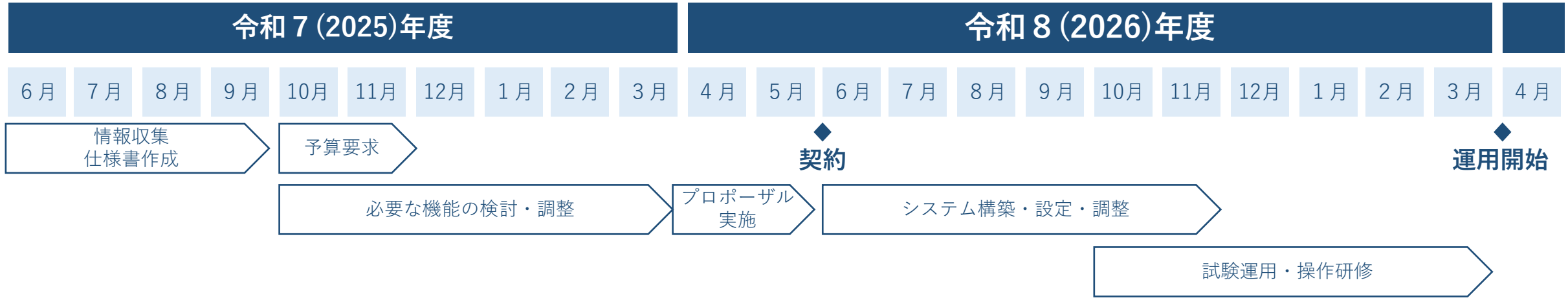
担当課：教育指導課 教育総務課 学びみらい課

校務データのクラウドストレージ（Googleドライブ）保存

Action Plan

- セキュリティポリシーの改定（教育総務課 教育指導課 学務課教職員担当）
- 仕様書作成（教育指導課　学びみらい課）
- ガイドライン作成（学びみらい課）

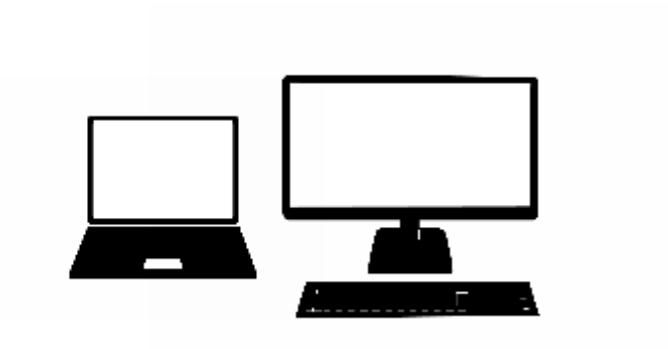
Road Map



担当課：教育指導課

校務用PCのモバイルPC化

- 校務用PCを順次「モバイルPC＋モニター＋キーボード」に移行。
- クラウドストレージとの組み合わせでロケーションフリーな多様な働き方を実現。



職員室の自席では大きな
ディスプレイで作業効率UP

特別教室で成績入力

校内のどこでも打ち合わせを
しながら校務データの確認

鎌教研で資料の共同編集

出張先から校長先生が承認

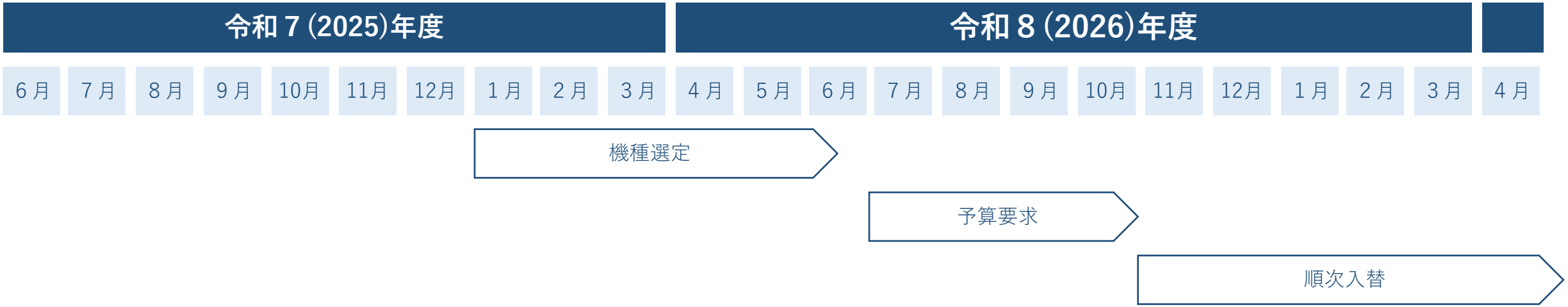
担当課：教育指導課

校務用PCのモバイルPC化

Action Plan

- 機種選定（プロジェクトチーム　教育指導課　学びみらい課）
- 仕様書作成（教育指導課）

Road Map



担当課：学務課教職員担当　学びみらい課　教育指導課

出張・休暇申請、学校日誌などのデジタル化

- 押印の廃止や申請書類のデジタル化による負担軽減。
- 学校日誌の自動作成による管理職の負担軽減。
- 表簿類の原則デジタル保存。（指導要録、出席簿等）

担当課：学務課教職員担当　学びみらい課　教育指導課

出張・休暇申請、学校日誌などのデジタル化

Action Plan

- 文書管理規定を改定し、教育に関わる公文書のデジタル化に関する規定を策定。（教育指導課）
- 出張・休暇申請については県教育委員会の動きと連動して検討していく。
- 学校日誌の自動作成は次期校務支援システムに実装する。

Road Map

令和７(2025)年度										令和８(2026)年度												
６月	７月	８月	９月	10月	11月	12月	１月	２月	３月	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10月	11月	12月	１月	２月	３月	４月

- 文書管理規定改訂
- 県教育委員会との調整
- 次期校務支援システムへの機能実装調整
- 試験運用操作研修（校務支援システム）
- 実施

担当課：学びみらい課　教育指導課

教職員用学校ポータルサイトの開設

- ICTが苦手な教職員でも手軽にグループウェアが活用できるように各学校独自の教職員用ポータルサイトを開設。
- チャット、カレンダー、メール、クラスルーム、欠席連絡フォーム等を一覧表示し、簡単にアクセス可能。
- 学校のニーズに応じて自由にカスタマイズ可能。
- 教育委員会がテンプレートを準備し研修等を実施。可能な学校から順次導入。

担当課：学びみらい課　教育指導課

教職員用学校ポータルサイトの開設

Action Plan

- テンプレート作成（学びみらい課）
- 研修会（教頭会・ICT環境整備担当者会等）の実施（学びみらい課　教育指導課）

Road Map

令和７(2025)年度										令和８(2026)年度												
６月	７月	８月	９月	10月	11月	12月	１月	２月	３月	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10月	11月	12月	１月	２月	３月	４月

テンプレート作成

研修会実施

可能な学校から順次運用

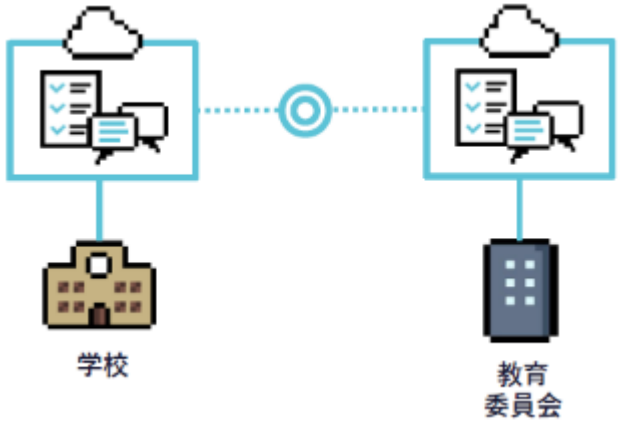
担当課：教育指導課　教育総務課　学びみらい課

文書管理システム（校務支援システムと一体）の導入

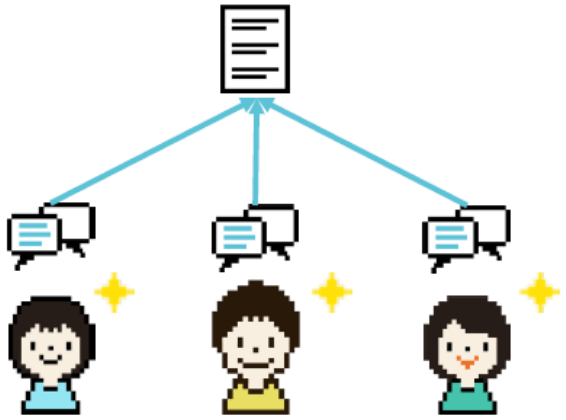
- 現在紙で送付している教育委員会からの通知をシステム上で行う。紙の送付から脱却することで、印刷コスト削減、逓送便の頻度低減、煩雑な紙の管理減少など、学校・市教委ともに大きなメリットが見込まれる。

- 学校内の承認行為や文書回覧のフローをシステム上で完結することで効率的で迅速な文書管理が可能に。

- 教育委員会への回答もシステム上で可能に。回答で間違いがあったときにコメントつきで差し戻しができれば学校とのやり取りも大きく効率化。



学校・市教委間の文書の
やりとりをデジタル化



学校内の文書回覧や承認
フローもシステム上で

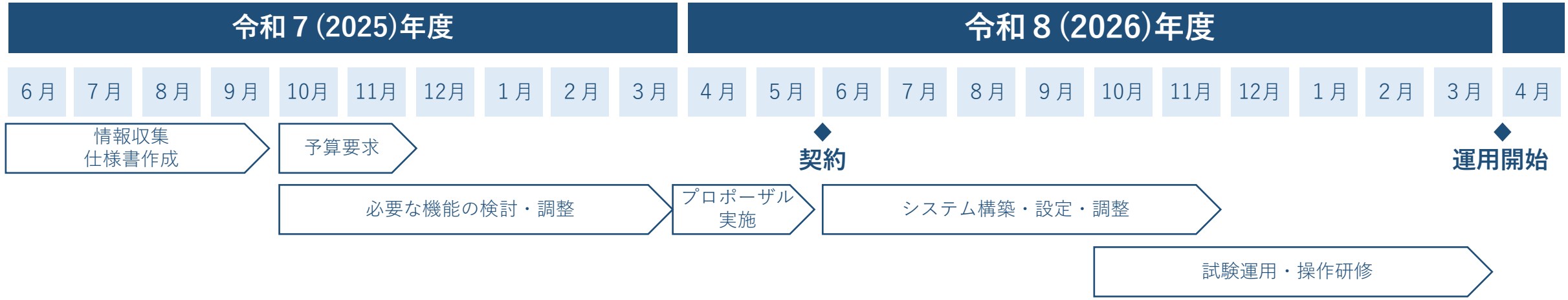
担当課：教育指導課　教育総務課　学びみらい課

文書管理システム（校務支援システムと一体）の導入

Action Plan

- 校務支援システムの更新と一体で進める

Road Map



担当課：教育総務課　学びみらい課

市費会計年度任用職員勤怠管理のデジタル化

- 現在紙で提出している出勤簿等をデジタルで作成し、デジタルで提出。
- 学校管理職の押印が不要となるほか、エラーチェックも容易に。

担当課：教育総務課　学びみらい課

市費会計年度任用職員勤怠管理のデジタル化

Action Plan

- 市長部局の動きと連動して検討していく。

Road Map

令和７(2025)年度										令和８(2026)年度												
６月	７月	８月	９月	10月	11月	12月	１月	２月	３月	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10月	11月	12月	１月	２月	３月	４月

検討中

担当課：学びみらい課

校務用個人メールアドレスの外部メール機能の有効化

- すでに教職員一人ひとりに付与されているGoogleメールアドレス（@g.kamakura.ed.jp）の外部メール機能を有効化し、各教職員が個人メールアドレスで外部メールを使用することで、外部関係者とのスムーズなコミュニケーションを実現。

- 学校によっては管理職が担っていた外部との連絡を担当教職員が直接行うことで管理職の負担軽減、業務効率化につながる。

取組⑨ 今の環境でできる校務DX

担当課：学びみらい課

校務用個人メールアドレスの外部メール機能の有効化

Action Plan

- ガイドライン作成（学びみらい課）
  ＊Google Chatガイドラインと一体で

ガイドラインはこちらをタップ→

Road Map

令和７(2025)年度										令和８(2026)年度												
６月	７月	８月	９月	10月	11月	12月	１月	２月	３月	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10月	11月	12月	１月	２月	３月	４月

ガイドライン作成・周知

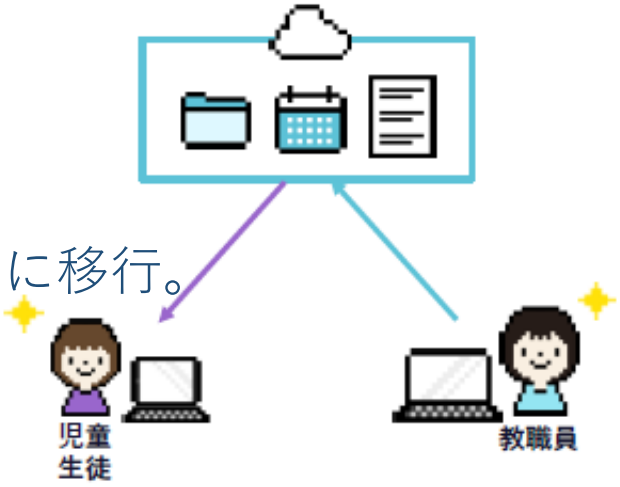
外部メール有効化・「@kamakura.ed.jp」からの移行

現在管理職や共用PC等で使用している「@kamakura.ed.jp」のメールアドレスは令和９年４月より使用できなくなります。順次「@g.kamakura.ed.jp」へ移行してください。

担当課：教育指導課　学びみらい課　学務課教職員担当

学校から各家庭へのお便りやアンケート等のデジタル化

- 小学校では無料デジタル連絡ツール「スクリレ」を、中学校では連絡メールや学校ホームページ等を活用して、各種お便り・配付物等をオンライン一斉配信する。
- 保護者が各種お便りを都合の良いタイミングで読むことができ、連絡物の紛失、児童生徒の渡し忘れもなくなり保護者の利便性が向上。
- 印刷コストや印刷配付にかける手間が省かれることで教職員の負担が軽減。
- 保護者への理解を得るために、教育委員会としても通知を発行。外部から学校を通じたチラシ等の配付は原則デジタルに移行。（地域からの依頼などは実態に応じて柔軟に対応。）
- 紙の配付をすべて否定するものではない。配付のねらいや発達段階に応じて柔軟に行う。
- クラウド型校務支援システム導入後は校務支援システムを利用しての配信に移行。（教育委員会からの一斉配信や、未読やアンケート未回答の家庭のみの再配信も可能に）



担当課：教育指導課　学びみらい課　学務課教職員担当

学校から各家庭へのお便りやアンケート等のデジタル化

Action Plan

- 学校への周知（教育指導課　学びみらい課）
- 鎌倉市教育委員会から保護者あて通知作成（教育指導課　学びみらい課　学務課教職員担当）

Road Map

令和７(2025)年度										令和８(2026)年度												
６月	７月	８月	９月	10月	11月	12月	１月	２月	３月	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10月	11月	12月	１月	２月	３月	４月

- 学校への周知 → 鎌倉市教育委員会から保護者への通知
- 可能な学校から運用開始
- 保護者が登録（スクリレの場合）

生成AIの利活用

- 生成AIを教職員が校務（文書作成・事務処理等）における効率化・省力化のツールとして活用していく。
- 使用する生成AIはGoogle Workspace内のGeminiおよびNotebookLMとする。
（入力した内容をAIが学習しないため情報漏洩が起きない）
- 文部科学省が発行する「初等中等教育段階における生成AIの利活用に関するガイドライン」をベースに市独自のガイドラインを作成。（忙しい先生方でも読みやすいようにシンプルかつ分かりやすいもの）
- コピペすればそのまま使用できる「校務に役立つプロンプト集」を作成。
- iPadのホーム画面や教職員用学校ポータルサイトにアイコンを配置し、誰でもアクセスしやすいようにする。
- 教職員対象の「生成AI校務活用研修会（仮称）」を実施。（校内研修、オンデマンド研修、鎌教研部会での研修等）
- 将来的には児童生徒が授業中に生成AIをツールとして活用していくためのガイドラインや保護者への通知文等も準備していく。

担当課：学びみらい課 教育センター 教育指導課

生成AIの利活用

Action Plan

- ガイドライン作成（学びみらい課）
- 校務に役立つプロンプト集作成（学びみらい課）
- 教職員向け研修会実施（教育センター・学びみらい課）

Road Map

令和７(2025)年度										令和８(2026)年度												
６月	７月	８月	９月	10月	11月	12月	１月	２月	３月	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10月	11月	12月	１月	２月	３月	４月

- 可能な教職員から積極的に生成AIを利活用（２月～４月）
- ガイドライン・プロンプト集作成・周知（12月～３月）
- 研修会の実施（６月～４月）

4

今後の推進体制・進め方

まずは市内統一のコミュニケーションツールとしてチャットツールの導入から取り組みたい

Road Map

令和７(2025)年度										令和８(2026)年度												
６月	７月	８月	９月	10月	11月	12月	１月	２月	３月	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10月	11月	12月	１月	２月	３月	４月

- ガイドライン作成・周知
- 可能な学校から校内で運用 → 全ての学校・学校間で運用
- 管理職・事務職・市教委間で運用開始

8/1 管理職研修会でトライアル

10/1 事務職研修会で操作研修

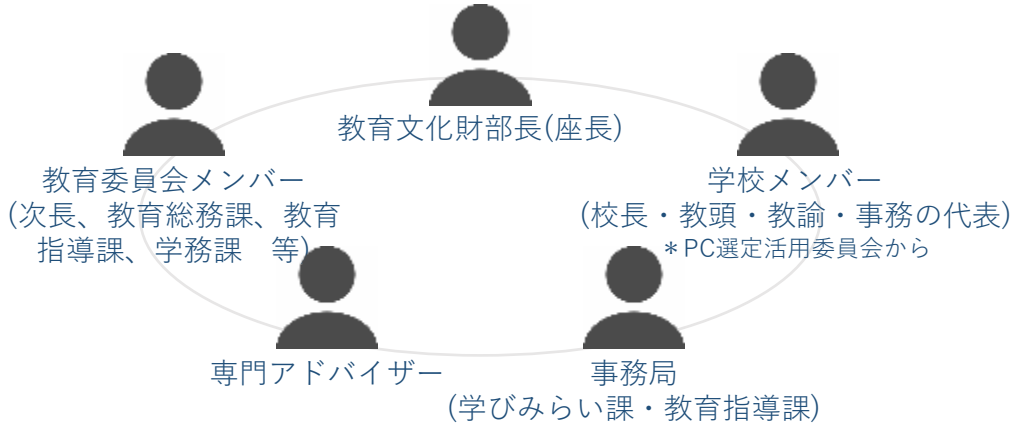
まずは管理職・事務職・市教委間で運用開始

意思決定者が明確になるよう、“校務DXプロジェクトチーム”を立ち上げ議論
今の環境でできることから順次取り組み、成果を出しながらDXを進めていきたい

今後の推進体制

- 校務DXプロジェクトチームを組成
- **校務のデジタル化を進めるため**に必要な議論を実施

構成

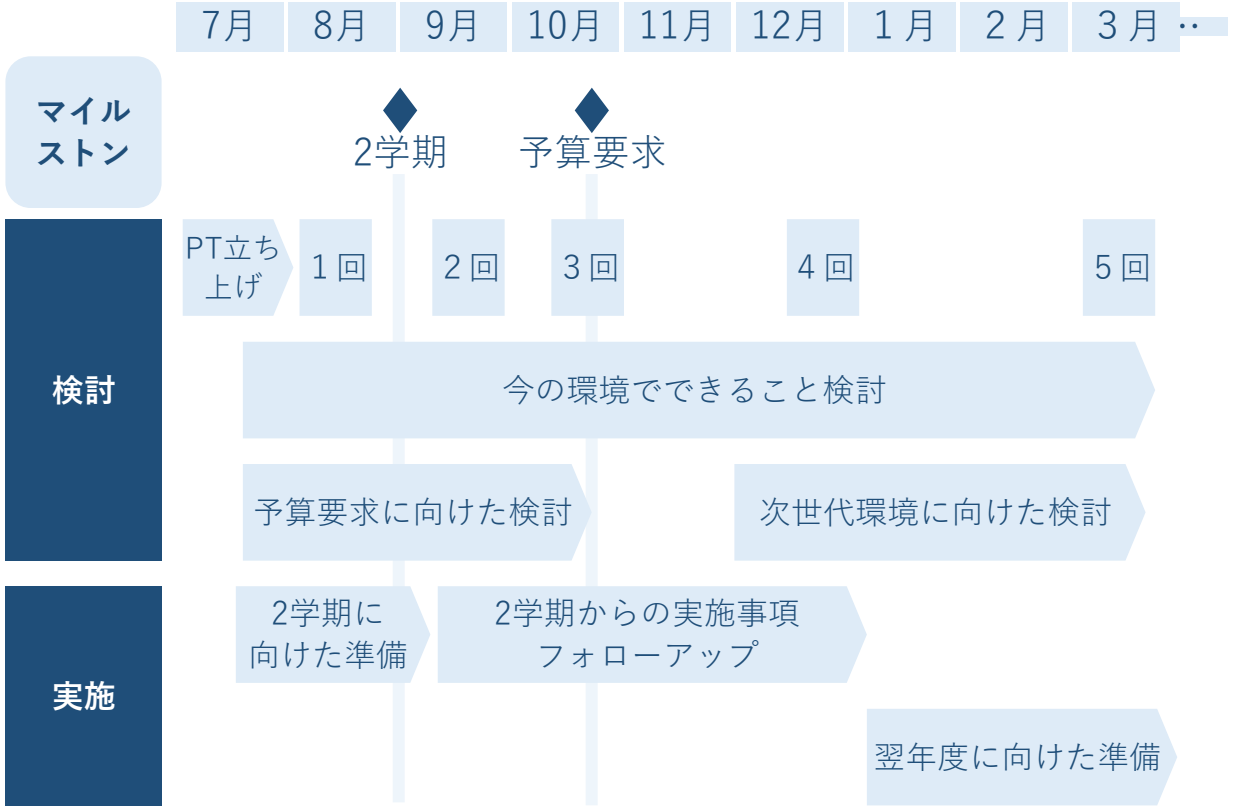


討議テーマ

- 鎌倉市校務DXのあるべき姿は?
- 具体的にデジタル化を進めたい領域は?
- DXに向けて“直ちに”できることは何か?
- セキュリティ・ポリシーの在り方は?
- 各取組の具体的な進め方は？　等

スケジュール（イメージ）

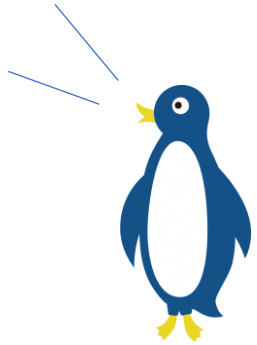
- まずは“２学期からできること”を導出し、“クイックウィン”を生み出すとともに、来期に向けて必要な取組を検討する



校務DXプロジェクトチームにおける討議内容（案）

	時期	大論点	小論点
第1回	８月上旬	校務DXの方向性と進め方は?	• 校務DXを通じて実現させたいことは? • 目指す姿実現に向けた今後の進め方は? • まず取り組むチャットツール導入の具体的な進め方は？
第2回	９月	今の環境でできることは？ 次世代環境の目指す姿は？	• 目指す姿に向けてすぐに実施できることは何か? • 実施に向けて必要な準備は? • R8年度要求に向けて予算要求すべき事項は何か?
第3回	10月		• 次期校務支援システムに望む機能は？ • 予算要求に向けた、具体的な対応・検討事項は? (必要に応じて各事業者からのプレゼンを依頼することも検討)
第4回	12月	目指す姿実現に向けた本格アクションとは?	• 今の環境でできることの具体的な方策 • 残された対応事項は何か?
第5回	３月		• 今の環境でできることの具体的な方策 • 新年度に向けて取り組むべきことは？

本推進計画の各取組については
今後も学校からの声を聴き
プロジェクトチームで検討を重ねながら
１つ１つ実現していきます



参考・出典等

- GIGAスクール構想の下での校務DXについて（文部科学省）
- GIGAスクール構想の下での校務DXチェックリスト（文部科学省）
- 教育DXロードマップ（デジタル庁 総務省 文部科学省 経済産業省）
- 次世代校務DXガイドブック（文部科学省）
- 全国の学校における働き方改革事例集（文部科学省）